



# わかたけ

山形市立南小学校  
学校だより  
R7.3.17発行  
第14号  
文責：横山 聡

## 令和7年度修了 ～自分らしく成長した1年～

本日、令和7年度の修了式を無事に執り行いました。式の中では、代表児童2名がこの一年間の歩みを堂々と発表しました。

1年生の茂木友衣菜さんは、3学期がんばったこと・楽しかったこととして、雪上教室や算数の学習で図を描いて立式できるようになったこと、休み時間にみんなと遊んだことなどについて発表しました。

4年生の志田心花さんは、自分の成長として、自主勉強での苦手克服のための取り組みや代表委員として人前で話すことは苦手だったけれど、最高の学校をつくりたいという思いで意見をまとめたこと、吹奏楽部で繰り返し練習に努めたことなどをあげました。最後に、「自分がされて嫌なことは人にしない」ということを大切にしているということ、みんなでそうやって来年度も南小をつくっていききたいという思いを発表しました。

南小学校の教育目標は「夢を持ち わたしの未来・わたしたちの未来を豊かに創造しようとする子どもの育成」です。常に子どもたちには「すきなこと、ワクワクすること、やってみたいという気持ちを大切に、チャレンジしてみよう」「ありたい自分は自分がつくる」「ありたい自分達は自分達がつくる」と語りかけてきました。2人の発表からワクワクしながら「自分づくり」「学校づくり」にチャレンジしたことがわかり、大変うれしく思いました。

ご家庭から協力いただいたキャリア・パスポートはまさにその「自分づくり」の足跡です。読んでみると、発達段階に応じて「自分づくり」に取り組んだことが伝わってきます。低学年でも「好き・得意を増やしていく自分」を目標に掲げて、読書や縄跳び、絵の塗り方を工夫するなど、自分で決めたことに挑戦してできることを増やしたことや、「1年生が困っていたら助けたい」という願いを持って、最初はなかなか言えなかったけれど、たくさん声をかけられるようになったことなど、様々な「自分づくり」がありました。6年生では、「最高のみらい学年、みんなで全力で泣いて笑って感謝を伝えたい」という思いをもって、卒業式の歌や呼びかけの練習を家でも学校でも取り組んだこと、日頃から「小さなありがとう」を言葉にすることや、何事にも全力で取り組むことを大切に実践し続けたことなどを書いていました。

どんな自分でありたいか、どんな学級でありたいかについて考え、話し合っただけで済んだ1年でした。委員会活動や運動会、学習発表会などにおいても、自分達はどうかありたいのか、そのためにどんな活動をすればよいのか、一つ一つ活動の意味や目的を考えながら取り組む姿がみられたことを大変うれしく思います。

保護者の皆様からは、キャリア・パスポートに心あたたまる応援メッセージをいただきました。本日、後期の学習の足跡として通知表を持ち帰ります。ぜひ、お子さんの後期の取り組みを認め励ましていただきますようお願いいたします。

保護者の皆様、地域の皆様からは、今年度も様々な面でご協力をいただきました。おかげさまで、無事に令和7年度の教育課程を修了することができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





## 若竹賞授与式 ～一人一人の輝きを讃えて～



修了式の後に、若竹賞授与式を行いました。この賞は、歴代PTA会長・副会長及び歴代校長から成る「若竹会」より、卒業する6年生へ贈られるものです。「小学校時代に、わたしはこれを頑張った！」と胸を張れる活動について授与されます。他校にはない本校独自の賞で、何より尊いのは、「他人との比較」ではなく、自分自身の主体的な歩みを評価する点にあります。

受賞内容からは、本校が育成を目指す資質・能力の「竹の根」にあたる「生きる支えとなる資質」がしっかりと育っていることが強く感じられました。

「イラスト大会で様々な賞をとった」「手芸の速度がチーターのようだった」といった姿は、まさに自分の好きなことや憧れをエンジンとして取り組んだ結果です。「チームリーダーや実行委員として運動会で活躍した」「自分が使う場所を誰よりもずっときれいにした」という行動は、周囲を支え貢献しようとする「共生の心」の現れです。また、「学校とクラスを誰よりも大好き」と言える心は、自分自身を大切な存在として肯定できているからこそ生まれるものです。「豊かな歌で笑顔と元気を与えた」「きれいな声や笑顔で歌った」という姿は、音楽を通して感性や情緒を伝える「表現力」の賜物です。これは、本校が令和7年度の重点事項としていた「歌声づくりによる学校文化の創造」とも深く響き合っています。

中学校に進学しても、自分の歩みが記された「若竹賞」を胸に「大好きな自分」と「大好きな学校」を創り続けることを心から願っています。



## 読み聞かせボランティア「うさこちゃん」 ありがとうございます！

子どもたちが心待ちにしている「うさこちゃん」による読み聞かせ。高学年の児童も本の世界に深く浸っている表情を見るたびに、これこそが「心のプレゼント」なのだと感銘を受けております。

通常の朝の読み聞かせに加え、ロング昼休みを利用した特別なイベントも、子どもたちにとって忘れられない思い出となりました。9月の「おはなし会」では、図書室に入りきれないほどの児童が集まり、エプロンシアター『あこや姫伝説』や大型絵本に目を輝かせていました。冬の「クリスマスおはなし会」では、『ちいさなもみのき』の朗読や『ぶんぶく茶釜』のエプロンシアターが披露され、図書室は子どもたちの熱気で包まれました。

そして今年度の締めくくりとして、卒業を控えた6年生へ向けて行われた最後の読み聞かせも、胸を打つものでした。卒業を控えた6年生に読んでくださった絵本『命はどうして大切なの』は、「いただきます」「ありがとう」という言葉に心を込めることの尊さ、そして自分や周りの人々との関係をどう育てていくかについて静かに語りかけるような作品で、多感な時期にある6年生の心に静かに染みていくようでした。

「うさこちゃん」の皆様、一年間、本当にありがとうございました。来年度もどうぞ、よろしくお願いたします。

※ 先日、「山形市読書応援プロジェクト」のチラシをお配りしました。図書カード（3千円分）が、小中学生の自宅へ届くとのことです。この春休み、子どもたちが心に残る一冊と出会えるよう、ぜひご家庭でも本について、楽しく語り合ってください。

